

「桜」の首相答弁「ご飯論法」

「桜を見る会」の問題は28日の衆院予算委員会でも焦点となった。一問一答形式の論戦でも、安倍晋三首相は正面から答えない姿勢を続けた。「ご飯論法」と呼ばれる意図的に論点をずらす答弁手法を分析してきた上西充子・法政大教授の目にはどう映ったか。

▼1面参照

プロが 見る 国会論戦

法政大教授 上西充子さん



越田省吾撮影

うえにし・みづこ 1966年生まれ、専門は労働問題。国会審議を路上で放映する活動を全国で続ける。活動を著した「国会をみよう 国会パブリックビューイングの試み」が2月26日に発売予定。

の参加者が記録されているはずだと思ふ。

首相 推薦者名簿はすでに廃棄をしている。それ以外に桜を見る会の招待を確認できる名簿などは作成されていない。

審議をインターネット中継で見た上西さんは、「これこそご飯論法」と指摘した。招待者は首相や各省庁などからの推薦をもとに、内閣官房と内閣府がとりまとめている。上西さんは

「首相は『推薦を確認できる名簿』が事務所にあるか否かの答弁を避けるために、『招待』という言葉を持ち出したのでは」と語った。

小川氏の「後援会名簿に記録はないのか」との質問は、「朝ごはんを食べたか」に当たる。一方で、首相の「(事務所が)推薦者名簿を破壊している」との答弁は、「ご飯は食べなかった」のようなごまかし。

「招待を確認できる名簿などは作成していない」と「招待」に限る答弁も、「果物も食べていない」と聞かれてもいないことを答えているに等しい。上西さんはこう見た。首相の答弁の変化にも疑問を投げかける。

一方、野党の連携の甘さにも注文をつけた。小川氏 (首相の事務所が募集する会の関連ツアーの) 旅行企画に募集した人を会に推薦したのでは。首相 旅行企画は旅行企画として存在する。小川氏の後に質問に立った宮本氏は、ツアー案内の文書をパネルに示しながら

野党、会派違っても連携を

「首相を追及した。『会派は違っても連携があってもよかった』と話した。」

(聞き手・永田大)

やり方について首相、いつから知っていたか。首相 内閣官房、内閣府から幅広く推薦を依頼されている中において、幅広く希望者を募ってきた。上西さんは「内閣府に責任転嫁しようとしている」と嘆いた。

首相 1952年以来、行われている。招待者の基準があいまいで、年を経る中で増加した。これまで会の招待者の基

小川氏 会の意義、歴史はどういうふうに理解しているのか。